



会議議事録

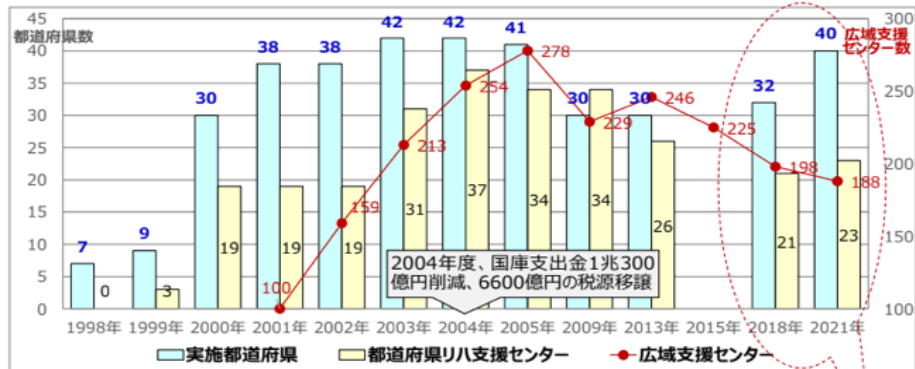
会議名	2022年度 第1回 地域リハ推進委員会 会議
-----	-------------------------

開催概要

開催日時	令和4年 9月 2日 (金) 開始時刻 終了時刻 (13:00~15:00)
開催場所	オンライン会議
出席者	委員会顧問：浜村明德 委員会顧問：齊藤正身 委員長：平田好文 副委員長：大串幹 委員：内田正剛 岡光孝 岡持利巨 佐藤英雄 高柳公司 田中康之 堀田富士子 松坂誠應 三宅貴志 (臨時出席：菊地尚久)

議事内容
<p>新委員紹介 内田正剛さん 紹介 (熊本託麻台リハビリテーション病院、地域支援センター長 作業療法士)</p> <p>【議題1：協会関係のアンケート調査分析と、対策について】</p> <p>1. 平田委員長より、①最近のアンケート調査の結果、回収率が低い状況、②地域リハに関する会員アンケートの内容案、③アンケート実施方法の提案、について説明</p> <p>2. 浜村委員会顧問より、当会・当委員会の役割を鑑み、調査およびその先の取組について情報提供</p> <p>(ア)協会における地域リハ委員会の位置づけと重要性</p> <ul style="list-style-type: none">① 当会会員である、医療・介護施設の社会における役割は、医療・介護サービスを提供するだけでなく、社会の中で果たす役割が大切ではないか② 地域リハには、地域包括ケアを推進する役割があり、それに取り組んでこそ、地域の中での存在意義が高くなる③ 地域リハの推進は協会の柱の一つ(定義や取組などの発信や、塾などを通じた人材育成)であることを踏まえ、推進役となる事が、当委員会の役割 <p>(イ)地域リハ全国展開の基本的戦略の考え方</p> <ul style="list-style-type: none">① 2016年版「地域リハの定義・推進課題・活動指針」、2020年版「地域包括ケアシステム構築に向けた『地域リハビリテーション体制整備マニュアル』」等の共有② 2020年、2021年の「全国調査資料」等の共有および、新たな現状の把握③ 今後の、同時改正にそなえ、「地域包括ケアを支える地域リハ推進の強化策」の検討④ 今後の地域リハ推進に関する方針を整理し、理事会・会員への説明と協力要請⑤ そして、「再び、全国制覇」を目指した取組へ

都道府県における地域リハ支援体制整備の推移と現状



- ・ 実施都道府県は、2003年～2005頃ピークで、その後低迷し、近年再増加傾向
- ・ 2021年時点、支援体制が整備されている都道府県40か所、ピーク時に近く
 ✓ 支援体制を整備している都道府県15か所、別体制で実施している都道府県25か所
- ・ 都道府県リハ支援センター数23か所、近年若干増加
- ・ 広域（圏域）支援センター数188か所、ピーク時から減少傾向が続く

4

3. 意見交換の結果、アンケートの回答率を上げ、本会会員へのメリットとなる調査や発信にするために以下を確認した。

- (ア) 調査は二段階とし、第一調査で、地域リハ実施責任者等を把握、第二調査で、事業に取り組んでいる方から、詳細な調査を行う
- (イ) アンケートはシステム化し、回答しやすいように（参考：回収率 60%は、341 施設）
- (ウ) 結果に基づき、会員施設が、積極的に地域リハ活動に臨めるよう、調査と結果のフィードバック等、様々な情報提供を定期的に行い、結果、「会員施設の実施数を増やす、活動の充実を目指した3年計画」の作成・活動を実施したい。

【議題②：厚労省科研費調査について】

1. 厚労省科研費調査について菊池理事から説明

- (ア) 令和4年度：二つの調査を実施
 - ① 都道府県レベルでの支援体制の整備状況についてのヒアリング調査
 - ② 市町村レベルでの地域リハビリテーション実施状況についてのヒアリング調査
 - ③ 上記の調査に基づき、「地域リハ支援体制の普及状況を把握する客観的指標を作成する」
- (イ) 令和5年度：作成した指標に基づき、都道府県、市町村レベルの状況を分析し、取組状況の差による分析と発信する
- (ウ) 当協会が行う調査との棲み分け
 - ① 当協会が実施する調査は、会員施設の取組を促進することを目指すもので、会員施設の取組を定期的に把握、情報提供するもの。



- ② 本科研費調査は、厚労省発「地域リハ推進のための指針」に基づき、自治体が整備する取組や、医師会等関係団体の協力体制、一般介護予防等の地域支援事業にターゲットを絞った取組となる。検証結果から、情報公表システムも修正する。

(工) 目的

- ① 地域リハ支援体制の指標を全国展開し、全国の地域リハ支援体制の状況を厚労省・各自治体が俯瞰できるようになり、各自治体の取組状況を把握できるようになる。その結果、質の高い地域リハ支援体制の整備に活用出来るようになる。

(オ) 上記の説明を受け、当協会および本委員会でも協力体制で臨むことが確認された。

【議題③：地域リハ推進体制の現状と課題のアンケート調査の素案について】

1. 平田委員長・内田委員より、地域リハビリテーション活動のアンケート調査について提案

(ア) 第一段階のアンケート：会員施設の取組や周辺の状況を等 10 の設問を 4 段階で回答する内容

(イ) 第二段階の詳細調査：直接的リハ、リハ専門職の連携姿勢、他職種との連携姿勢、テクノエイド支援、地域資源の量や取組、ネットワーク活動、行政の取組、体制、医師会との協力、多領域での取組、教育・啓発活動、研修・教育体制、住民の理解・協力、当事者との連携、災害対応について、4 段階の質的評価する内容

2. 上記の提案に基づき意見交換の結果、以下の方向で引き続き準備・取組を進める事となった。

(ア) 第一段階では担当者や窓口を確認するにとどめ、回収率を上げ、直接事業に関わる部門や人の把握により、第二段階の調査につなげる。

(イ) 回答しやすいよう、オンラインでの回答ツールを利用する。

(ウ) 第二段階では、地域リハ推進課題（リハサービスの整備と充実、連携活動の強化とネットワークの構築、リハビリテーションの啓発と地域づくりの支援）の 9 つの項目に即した例を示しつつ、実施について、イエスかノーで答えられるように作成。

(工) 同じ内容・項目を、定期的に調査することで、会員施設の取組進捗、他の会員施設の取組状況との比較などが出来るようにする事で、取り組む会員施設を増やせるよう、働きかけたい

(オ) 会員施設全体で、「対象者にむかう事」と、「地域社会に向かって働きかける事」の両面を提案していきたい。医療保険・介護保険だけの内容ではなく、多様な資源を創る事なども視野に入れ、「インクルーシブな地域社会を創る」ため、委員会全体で学びながら、取組を進めよう。



【議題④：第2回リハビリテーション研修会のテーマと講演について】

1. 2023年3月に予定されている、第2回リハビリテーション研修会の内容について意見交換
2. 意見交換の結果、以下のポイントを踏まえ引き続き準備をすすめる事となった。
 - (ア)今年度行う会員施設のアンケート結果も踏まえ、シンポジウム（3人程度）形式を検討
 - (イ)スピーカーの検討および広報は、会員に限定せず、都道府県やマスコミや、活動している住民等、対象を広げて検討したい
 - (ウ)多くの関係者を巻き込むなど、地域への働きかけ等の事例を共有し、聴講者が、「やってみよう」と思えるような発信としたい
 - (エ)そのためにも、フォーマルな取組・インフォーマルな取組等、バラエティーに富んだ内容・項目にしていく事を確認した。

【その他】

1. 9月3日（土曜）より、「地域リハビリテーション塾：1期生」が開始される。地域リハ塾は、草の根活動を地道にやっていける集団でありたい。
2. 継続的な取組により、2040年に各都道府県に塾生が活躍しているという状況にしていきたい。

次回予定	年 月 日 () ()	開始時刻 : ~	終了時刻 :)
議事録作成日	2022.9.5	議事録作成者	岡持利亘

委員会議事録は理事会資料として提出します。

会議終了後、1週間以内にメールで事務局へご提出ください。〔 提出先：info@rehakyoh.jp 〕